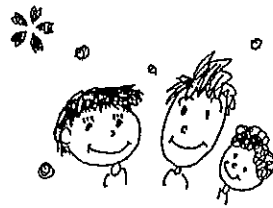


# よりそう



2012.4.26(木)

第169号

編集責任:坂本

## 研修ツアー

雨々降れ降水母天が。蛇の国で  
お癒えうれしいな... 子供のころ  
雨はいやでした。ところが野菜づくを始めると、雨をありがたいと思うようになってきました。立場により思いは変わるものでですね。久しぶりに雨の降った23日、大船渡、陸前高田方面に研修ツアーに出かけました。

最初 マッサージ隊として入ったが、資格で問題が起すタッピングタッチを行う「いれあい隊」へ変わっていったこと、猪川地区の国道45号線の上と下で全く被害が変わったこと、全部で37の仮設住宅に入居者4名〜208名 総計1811名の避難民がいたこと、前田地区にはアパートなどの見直し仮設が多いこと被災している人、11万人で格差の少ないように努力していることなどが話がありました。

かつて大船渡駅があった所、今は何もありません。鴨神社の急な石段を上り被災した大船渡の町を眺める。急な石段は古来の秘伝は少しキツかった。MAIYAという5階建ての建物で、中の人と避難させたあと、貸すのは

残った人を採した建物に戻り、すきと津波の水位が上昇してくる。5階のギリギリのところで命拾い。一方避難させた人は全員死亡。そのせいで今も後悔の念が残るという話もありました。

大船渡人では津波のとき高台に避難し犠牲者0という話も。

大船渡漁港では又巻の被害。午後3:11 2時40分 船が全て沖へ出て追停。町食堂で昼食。避難民から14.5mの高台に建つ食堂の中、1m20cmの高さに津波の水位の線が引かれていた。

高田の松原では70cmの松が流れる。残った奇跡は1本松が根死しているそうです。

弘前市上長崎の大震災犠牲者慰霊の碑で合掌しました。

弘前地区、水産加工場で冷凍保存していた800tのイクラが流出。最終的に6.7月をこうじにばえ、腐敗臭の中、ボウフラが孵化して被害となる。

震災後英かきで工えたおからわがた。1年経った今は地元の元気にならないうと前に進めないと。花を植える作業を進めている。今は花を眺める余裕ができました。色んなこと感じ学んだ研修ツアーでした。